



前川佐美雄

葛 城市出身で旧新庄町名誉町民であった前川佐美雄は、日本芸術院会員となった高名な歌人です。

新庄図書館に入るとすぐ左側、カウンター横に『前川佐美雄コーナー』があります。氏直筆の書や、初版本をガラスケースの中に展示してあるもので、当館の特色あるコーナーとなっています。直接手に取ることはできませんが、本の装丁や表紙画など、貴重な資料に興味を持って見ていただけます。展示品の入れ替え（不定期）も行っていますので、当館自慢のコレクションをお楽しみください。

展 示 品

- 雑誌『日本歌人』第2巻・第20号（昭和10年発行）ほか
- 短冊2葉

「秋雨のふりけふる野に憎しみぬ曼珠沙華の花今年は咲くな」
「一生を棒にふりしにあらざれどあな盛んなる紅葉と言はむ」



略 歴

1903年2月5日、奈良県忍海村（現葛城市）に生まれる。

前川家は、代々林業を営む地主であった。佐美雄は父佐兵衛と母久菊の長男として生まれ、幼い頃から絵画や短歌に親しんでいた。

1922年に東洋大学東洋文学科に入学、在学中に佐々木信綱に師事し、「心の花」に入会する。その後、新井洗、木下利玄らの「曙会」にも参加する。

昭和に入って（1925年）新興短歌運動がおこると、その先頭に立ち、1930年、第一歌集『植物祭』を刊行、現代的で斬新なものを主張するモダニズムの代表的歌人として、歌壇に登場する。

しかし、1933年、父の急遽により奈良に帰郷する。

その翌年の1934年に『日本歌人』を創刊する。以後、『大和』『天平雲』『白鳳』『積日』『大和六百歌』などを刊行する。

戦前、戦中、戦後を通して歌壇の旗手として活躍し、新芸術派運動の積極的な推進者として、歌壇に浪漫主義に基づく新風を送り、優美で詩的直感の鋭い、独自の歌風を樹立した。

また、長年にわたり後進の指導育成にも尽力し、塚本邦雄、前登志夫、山中智恵子等の幾多の歌人を世におくった。

1954~88年まで、朝日歌壇の選者、1972年には『白木黒木』で第六回釈迢空賞を受賞、1986年に（旧）新庄町名誉町民、1989年には日本芸術院会員となった。

1990年に永眠。

歌集

佐美雄の残した歌集を、制作年順に紹介します。図書館が蔵書しているものは貸出もできます。ぜひ手にとって、時代とともに変遷を遂げた、佐美雄の歌風と心の軌跡を辿ってみてください。



処女歌集『植物祭（しょくぶつさい）』 四季出版 昭和5年7月刊行

収録期間：大正15年9月～昭和3年10月（575首）

大胆かつ鮮烈な歌い方と、ダダイズム・シュールレアリスム運動の影響を大きく受けているのが特徴。新たな昭和の時代の始まりを告げる、画期的な歌集。
後記より…「短歌をやつて革新を思はぬ程ならばよした方がいいと思ふのだ。」



第二歌集『大和』 甲鳥書林 昭和15年8月刊行

収録期間：昭和11年～昭和14年夏（550首）

後記より…「正直言つて僕はこの歌集を編集しながらどうにもをさまりのつかない気持ちを味はつた。色々考へてみると何とも言ひようのない憂鬱さに襲われる、結局は自分の作品に対する不満以外の何物でもないが…この歌集はさうした破れかぶれの気持ちのうちに編集を終へた。」



第三歌集『白鳳（はくほう）』 ぐろりあ・そさえて 昭和16年7月刊行

収録期間：昭和5年春～昭和10年（410首）

前半は東京時代の歌。後半は奈良に帰住してからのもの。



第四歌集『天平雲（てんぴょううん）』 天理時報社 昭和17年3月刊行

収録期間：昭和14年8月～16年7月（710首）

後記より…「この歌集の『天平雲』といふのは、絵画の方でしばしば用ひられる言葉で火雲の謂である。天平の絵画や彫刻に盛んにあらはれるものだが、私はこの雲を愛すると同時に天平の文化をこよなく愛してゐる。」



第五歌集『春の日』 白井書房 昭和18年1月刊行

収録期間：大正10年～昭和2年3月（755首）

「春の日以前」の章（57首含）。大正10年18歳で「心の花」に入会し、本格的に作歌活動を始めた佐美雄の初期の作品。写実的作風。



第六歌集『日本し美し』 青木書店 昭和18年刊行

収録期間：昭和16年秋～約8ヶ月間

戦争歌集（戦争賛歌）。象徴技法の歌。
歌集構成の特色は、制作年代順で戦況の進行にしたがって作品が並べられている。



第七歌集『金剛』 人文書院 昭和20年1月刊行

収録期間：昭和17年夏～昭和18年秋（650首）

戦時歌集。歌集全体を「公」・「私」で区別。
前半は「公」、後半は「私」が中心となっている。
後記より…「それが如何なる効果をもたらすかは分からないが、この方が私には快適な気がする。」

歌集

佐美雄の残した歌集を、制作年順に紹介します。図書館が蔵書しているものは貸出もできます。ぜひ手にとって、時代とともに変遷を遂げた、佐美雄の歌風と心の軌跡を辿ってみてください。



第八歌集『紅梅』 白井書房 昭和 21 年 7 月刊行

収録期間: 昭和 21 年 2・3 月 (245 首)

「甘藷の歌」は、昭和 20 年秋の作にもかかわらず『紅梅』に収録されている。



第九歌集『寒夢抄』 京都印書館 昭和 22 年 10 月刊行

『日本し美し』や『金剛』の作品を自選または改作して、戦後に改めて出版したものである。戦争協力歌とみなされそうなものは、ことごとく削除している。

後記より…「この歌集は、戦時中に出した『日本し美し』『金剛』のなかに入れないで、やむなく割愛した歌の中から五首十首と取り併せ一冊にした歌集であって、『天平雲』に続く自分の歌の本筋は、やや不明瞭としてもここにある。」



第十歌集『積日』 札幌青磁社 昭和 22 年 11 月刊行

収録期間: 昭和 20 年 4 月～昭和 21 年 1 月 (500 首)

『積日』は、「朝木集」と「残滴集」に分かれている。

「朝木集」…家族の鳥取疎開時代の歌 (昭和 20 年 4 月～昭和 21 年 1 月)

「残滴集」…奈良に帰郷後の歌 (昭和 21 年 4 月～11 月)



第十一歌集『鳥取抄』 山陰観光旅行普及会 昭和 25 年 1 月刊行

『鳥取抄』は『積日』に収容したものをも含めて鳥取疎開中の作品 (上巻) と、この歌集のため昭和 22 年大山に登った大山行一連の作品 (下巻) 併せて 630 首からなる。(上巻) は、疎開中と敗戦直後の作品であるだけに限りない哀愁が巻全体から漂っている。(下巻) は、大山紀行を中心とする旅行詠である。



第十二歌集『搜神』 昭森社 昭和 39 年 8 月刊行

収録期間: 昭和 22 年暮れ～昭和 30 年 (1074 首)

「飛簷」は、昭和 28 年以降の作、「野極」は、昭和 27 年以前の作。二部構成で配列が逆となっている。



第十三歌集『白木黒木』 角川書店 昭和 46 年 2 月刊行

収録期間: 昭和 41 年～昭和 45 年 (648 首)

後記より…「私は奈良から茅ヶ崎に移り住んだ。奈良とちがつてここには亡霊や怨霊がゐない。私は憑かれたい。これを機会だと思つた。奈良を去るまでの最近数年間の作だけでも先にまとめようと思つた。」



第十四歌集『松杉』 短歌新聞社 平成 4 年 7 月刊行

収録期間: 昭和 31 年～昭和 40 年 (558 首) と昭和 20 年代の補遺作品 43 首を収める。

『白木黒木』の後記より…「三十一年から四十年まで、まる十年間の作は残つてゐる。出版の順は逆になつたが、これらのものもおひおひと集にまとめたいと思つてゐる。さうでないとはやはり具合悪いのである。」

作品集

昭和5年(1930年)	27歳	処女歌集『植物祭』素人社
昭和9年(1934年)	31歳	『カメレオン』同人39名を率いて『日本歌人』創刊
昭和14年(1939年)	36歳	保田與重郎企画の浪漫叢書の第一冊として選集『くれなゐ』を出版
昭和15年(1940年)	37歳	第二歌集『大和』甲鳥書林 合同歌集『新風十人』に作品35首収録
昭和16年(1941年)	38歳	第三歌集『白鳳』ぐろりあ・そさえて
昭和17年(1942年)	39歳	第四歌集『天平雲』天理時報社
昭和18年(1943年)	40歳	第五歌集『春の日』白井書房 第六歌集『日本し美し』青木書店
昭和20年(1945年)	42歳	第七歌集『金剛』人文書院
昭和21年(1946年)	43歳	第八歌集『紅梅』白井書房 肉筆歌集『奈良早春』を大八洲出版より出版 評論集『短歌随感』を白井書房より出版
昭和22年(1947年)	44歳	第九歌集『寒夢抄』京都印書館 第十歌集『積日』札幌青磁社 歌集『植物祭』の増補改訂版を靖文社より出版 選集『一茎一花』を目黒書店より出版 自選『一千歌集』を養徳社より出版
昭和23年(1948年)	45歳	歌集『饗宴』を三興出版より出版
昭和25年(1950年)	47歳	第十一歌集『鳥取抄』山陰観光旅行普及会
昭和34年(1959年)	56歳	角川文庫『前川佐美雄歌集』を出版
昭和39年(1964年)	61歳	第十二歌集『搜神』昭森社
昭和40年(1965年)	62歳	『秀歌十二月』を筑摩書房より出版
昭和44年(1969年)	66歳	『日本の名歌 古典の四季』を社会思想社より出版
昭和46年(1971年)	68歳	第十三歌集『白木黒木』角川書店 『大和六百歌』を短歌新聞社より出版
昭和51年(1976年)	73歳	『前川佐美雄歌集』を五月書房より出版
昭和57年(1982年)	80歳	『大和まほろばの記』を角川書店より出版
平成2年(1990年)	87歳	永眠
平成4年(1992年)		第十四歌集『松杉』短歌新聞社
平成8年(1996年)		『前川佐美雄全集第一巻』小沢書房より出版
平成14年(2002年)		『前川佐美雄全集第一巻短歌I』砂子書房より出版

《参考文献》『短歌現代』1990年5月号(短歌新聞社)・『日本歌人』1991年7月号(日本歌人発行所)・『鑑賞現代短歌—前川佐美雄』伊藤一彦(本阿弥書店)